

第46回東大OLK大会

報告書

8月31日発行





目次

P.1 ご挨拶

P.4 大会概要

P.6 救護活動に関する報告

P.6 調査依頼に関する報告

P.8 搜索に関する報告

P.10 体験会実施に関する報告

P.13 募金に関する報告

P.13 大会役員紹介

P.14 大会公式サイト

P.14 連絡先





ご挨拶

大会責任者 石川 翔太

この度は、第46回東大OLK大会にご参加くださり、誠にありがとうございました。

数年ぶりに大規模での開催を果たした昨年度の第45回大会から1年、今年は4年ぶりとなる新規トレインでの開催となりましたが、関東地方を離れてのOLK大会の開催は、46回の歴史の中では初めてのことです。

関東から離れたうえ、会場への公共交通のアクセスが芳しくないことなどもあり、参加してくださる方が減ってしまわないかという懸念もありました。しかし蓋を開けてみると、今年は昨年を超える842名もの事前申し込みをいただき、当日体験会にお越しいただいた方も含めると、約900名の方にご参加いただきました。これほど多くの方に、八千穂高原および佐久穂町を楽しんでいただけたこと、非常に嬉しく思っております。

当日は表彰式中に雨がパラつくことがありましたが、多くの方のレース中に雨に降られることはなく、存分にトレインを楽しんでいただけたのではないかと思っております。

新規トレインで開催した今回は、毎年行っている夏季調査の時期に差し掛かっても調査拠点が定まらなかつたり、春季調査の初めの時期に積雪が残っていたりした影響で調査日数が昨年よりも減ってしまい、本当に新規作図の地図を完成させることができるのだろうかと思悩んだ時期もありました。

しかし、内部でしっかりと危機意識を共有し、長期休み期間以外にも地図調査を行ったほか、OB/OGさんのご協力を仰いだことにより、最終的には納得できる精度の地図を完成させることができました。

加えて、参加者の皆様に最上のオリエンテーリング体験を提供するために、入念なコースセットや緊急時対応マニュアルの見直しを行いました。また、より多くの方に大会を楽しんでもらうため、SNS運用の拡大や5年ぶりとなる体験会の開催にも取り組んでまいりました。これらの取り組みの一つ一つに、皆で協力し合いながらチャレンジすることができたと感じています。

本大会を開催するにあたり、ご後援、ご協賛、ご出店などの形で、地域の方々から多大なるご支援を賜りました。最後に、本大会にご理解・ご支援をいただいた全ての方々、本大会に参加して下さった方々に、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

今年実現できなかったこと、また開催しての反省の数々を踏まえ、今後も東大OLK大会はさらなる進化を遂げていくことと思います。ぜひご期待ください。

それでは次の東大OLK大会にて、またお会いしましょう。

競技責任者/コース設定者 栗田 稜也

第46回東大OLK大会にご参加いただき、誠にありがとうございました。降雨の不安もありましたがフィニッシュ閉鎖までは雨も降りださず、一日を通し少々肌寒いくらいの気温のロング・ディスタンス日和だったかと思えます。全クラスで競技が成立し、大きな怪我や遭難のトラブル無く大会が終了できたことに安堵しております。

今大会の開催地は長野県佐久穂町の「八千穂高原」で、2020年度の第42回東大OLK大会での「足尾勝雲山」以来、実に4年ぶりとなるOLKの新規トレインとなりました。東大OLK大会として史上初の長野県での開催でした。例年に比べ首都圏からは遠い地での開催ではありませんでしたが、全国各地から実に800人を超える競技者の方にご参加いただき、大変感激しております。コロナ禍前の東大OLK大会の賑わいを取り戻しつつあることを肌身で実感いたしました。

「八千穂高原」というトレインは、白樺をはじめ、あまり他のトレインでは見ない植生が広がっているように思います。著しく走行可能度が下がる笹の下草や礫地はトレイン内の少ない範囲に広がっているものの、一方で非常に見通しのよい森や温かみのある美しい森もあります。そしてトレイン内の各エリアに見られる植物や景色はそのエリアごとに大きく違ってきます。参加された皆さまは堪能いただけただけでしょうか。

コース設定にあたってはまず第一に、「八千穂高原」の美しい森を存分に味わうことができ、かつ数々のレースをこれまで走ってきたオリエンティアでさえも非日常感を味わえるような楽しいコースとなることを意識しました。その上で、正確かつ素早い実行を求めるレッグ、ルートチョイスを求めるレッグ、身体的強度を求めるレッグなど、それぞれのレッグがプランナーから競技者へ課題を提示したものとなるようにコースを作り上げました。またエリアの移動によって植生や地形の特徴が変わり、レッグによって要求される課題が変わるなかで、競技者が高い集中力を持って自らをコースに適応させていく能力も必要だったと思えます。まさに心・技・体すべてをバランスよくコントロールさせる、「八千穂高原」における最高のコースを作り上げることができたと自負しております。コースやトレインをはじめ、大会の様々な要素を楽しんでいただけたのであれば幸いです。

一方で、フィニッシュ地区付近を通過するレッグがありながら、そのことを事前にお伝えしておらず、ルートを変更したり戸惑われたりされた方がいらっしゃいました。またスタートにて、異なる縮尺の地図をお渡ししてしまう不手際がありました。いずれの件も、レースの公平性にかかわる事例であり、深くお詫び申し上げます。今大会で出た反省や参加者の皆様からいただいたご指摘を、来年度以降の大会がより良いものとなるよう活かしてまいります。

最後になりますが、本大会開催にあたり多大なご協力やご支援をいただいた、佐久穂町、佐久市を中心とする地域の皆さま、そしてご参加いただきました皆さまに、厚く御礼申し上げます。

今後とも東大OLKならびに東大OLK大会をよろしく願いたします。

イベントアドバイザー 宮嶋 哲矢

第46回東大OLK大会への皆様のご参加ありがとうございました。

参加者の皆様には当日温かい言葉や労いの言葉を多くいただき、満足していただける大会となっていましたら大変幸いです。こんな素晴らしい大会に関わることができ、私自身言葉にできないほどの満足感・達成感を感じております。

本大会は完全新規トレインでの開催であり、トレイン・会場・調査時の拠点など、渉外活動を何も無いところから積み上げてきたことや、競技エリアが二分されてしまうことなど、運営面・競技面のどちらも常に順調に進んでいったわけではありませんでした。しかし、どんな課題に対しても私自身はほとんど助言することはなく、役員が中心となり方向性を示し、運営代である45期を中心に自分たちで解決させていく様子は目を見張るものがありました。運営者一人一人の大会に対する想いや、これまで積み重ねられてきた東大OLKの諸先輩方の経験や苦勞の結晶が大会を創り上げてくれました。

もちろん、すべてが100点満点で終わった大会ではありません。私自身の力不足もあり、改善すべき点も浮き彫りとなりました。本報告書に記載の事項も含め、本大会での反省点と良かった点いずれも真摯に振り返りをし、ノウハウの一つとして積み上げ、また来年度以降の東大OLK大会がよりパワーアップしたものとなることを祈念しています。なお、本報告書は他の大会についても開催にあたっての参考となれば幸いです。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、多大なるご理解とご協力をいただいた地域の皆様、温かいご支援をいただいた協賛企業の皆様、大会に参加して下さった皆様に感謝の意を表しまして、ご挨拶とさせていただきます。



大会概要

- 正式名称 第46回東京大学オリエンテーリングクラブ大会
- 開催日 2024年6月9日（日）
- 開催地 長野県南佐久郡佐久穂町
- 会場 八千穂高原スキー場
- 主催 第46回東大OLK大会運営委員会
(東京・一橋・実践女子・津田塾・十文字学園女子・立教・お茶の水女子・
法政・明治・日本・東京工科・武蔵野大学より構成)

- 後援
 - 長野県オリエンテーリング協会
 - 東京都オリエンテーリング協会
 - 日本学生オリエンテーリング連盟
 - 関東学生オリエンテーリング連盟
 - 長野県南佐久郡佐久穂町
 - 長野県南佐久郡佐久穂町教育委員会
 - 長野県南佐久郡佐久穂町観光協会

- 協賛
 - [株式会社 エバニュー](#)
 - [黒澤酒造](#)
 - [合同会社 蓼科](#)
 - [ブライトコンパス](#)
 - [八千穂高原スキー場](#)
 - [八千穂漁業](#)
 - [八千穂ブリューイングカンパニー](#)
 - [レティファーム](#)
 - [ロッジ八ヶ嶺](#)
 - [Kitahefu](#)
 - [O-Ajari](#)
 - [O-Support](#)
 - [OMM JAPAN](#)
 - [yamania](#)

(敬称略)

EVERNEW®

黒澤酒造株式会社



Bright Compass



lehti



barku  stro 
O-Support

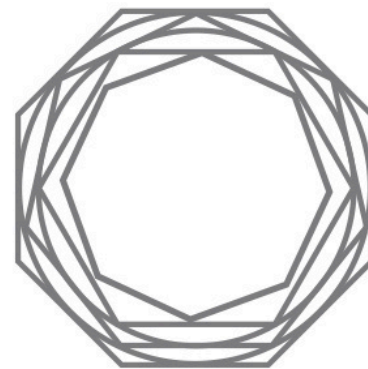
OMM
ORIGINAL MOUNTAIN MARATHON



Kitahefu
www.kitahefu.com

SALMING.
no nonsense.

FRENSON
RUN WITH CONFIDENCE



O-Ajari
går på tur



大会成績

- 参加者数：842名
- [Lap center](#)にて公開



救護活動に関する報告

- 救護案件：約10名
 - 救護所、フィニッシュ、会場において救護活動を実施
 - 転倒などによる出血→消毒・絆創膏
 - 足首などの捻挫 →氷等によるクーリング



調査依頼に関する報告

1.フィニッシュ地区の通行について

調査依頼（管理No.1）

調査依頼の内容

状況：MEクラス、20番→21番コントロールのルートを、フィニッシュエリアを抜けて、東西にのびる道を通行しようとした所、運営者に阻止され、想定ルートを通ることが出来ず、ミスタイムを計上した。

依頼：上記内容を踏まえ、オリエンテーリング競技規則23.8が守られていたか、ご確認頂きたい。

競技責任者による回答

フィニッシュ役員の声かけにより、一部のフィニッシュ設備（テント）を保護するために、地図上に表記のないルートの制限を行った。

このルートの制限は設備の迂回を制限しておらず、競技に大きく影響するものではなく、競技規則23.8には反するものの、設備保護のため、競技者を制止することが妥当であると、運営者の中で判断した。

<前提>

MEクラスを含むいくつかのクラスにおいて、ルートチョイスによってフィニッシュ地区を通過するレッグが存在した。しかし要項等で参加者に事前に周知することはなく、フィニッシュ役員にも上記のようなレッグについての説明を事前にすることはなかった。

大会当日の競技開始以降、競技中にフィニッシュ地区を通過しようとする競技者が現れる。運営者はテント等の設備付近を通行されると危険であると判断し、周辺をテープでふさぎ、テープを越えて通過しようとする競技者は運営者の呼びかけで制止した。しかしながら制止できず通過した競技者も数人いた。フィニッシュユニットの横を通りテントを避けるように作られたフィニッシュ後の誘導に沿う形で競技中の競技者が通行することは許容することとした。

この件に関して、フィニッシュ地区自体の通過を制止されたと考えた競技者から、上記調査依頼（管理No.1）が提出された。

<改善点>

コース作成の段階でフィニッシュ付近を通過し得ないコース作成に努める。今回のようなトラブルのほかに、競技規則上、フィニッシュユニットにパンチした時点をフィニッシュとみなすので、競技中にフィニッシュにパンチしてしまう可能性があることは望ましくない。ただ、今回はトレインやコース回しの性質上、フィニッシュ付近の通過は避けられなかったため、その場合は次の通り対応をする。

- 競技中にフィニッシュ付近を通過し得ること、またフィニッシュ地区の誘導に沿って通行することは可能であることを、要項3、要項4に記載することで、事前に参加者に周知する。
- フィニッシュ役員に対し、フィニッシュ付近を競技者が通過し得ることを共有し、そのような場合の対処の方法をあらかじめ運営内部で検討・共有する。

2.地図の受け渡しミスについて

調査依頼（管理No.2）

調査依頼の内容

受け取った地図の縮尺が1:10000だった。
(スタート時の確認では縮尺まではわからない)

競技責任者の回答

お渡しした地図は、1:10000の地図でした。申し訳ございません。

<前提>

M55AとW45Aは地図の縮尺が異なる同一コースであるが、本来1:7500の地図を渡すべきM55Aの競技者に1:10000の地図を、1:10000の地図を渡すべきW45Aの競技者に1:7500の地図を渡す事例が発生した。当該クラスのすべての競技者に誤って渡したのかは把握できていないが、M55A出走者の1人は、出走時に地図の間違いに気づき、正しい地図に取り換えてから出走した。地図の交換に時間がかかり、正規の出走時刻よりも遅れて遅刻枠から出走したが、運営の勝手による遅刻出走であるため、遅れた分は記録から差し引いた。

この件に関して、M55Aの競技者から上記調査依頼（管理No.2）が提出された。

<改善点>

- 事前に運営者によって、すべてのクラスの地図の並び順を確認し、その後地図はクラスごと（※コースごとではない）に袋やかごに入れて管理することで他クラスとの混合を防ぐ。
- 同一コースで違う縮尺の地図がある場合は、デフのクラス欄にその縮尺のクラスのみ表記し、違う縮尺のクラスの名前は書かず、出走時に競技者がデフを確認することで正しい地図を取れるようにする。
- 出走クラスが切り替わるタイミングをスタート役員と打合せし、同一出走レーン内での地図の受け渡しミスがないようにする。
- 上記のような対応が取れない場合、コース番号と縮尺を1分前枠での地図確認の際に運営者が確認する。

3. ポスト不通過に対する異議

調査依頼（管理No.3）

調査依頼の内容

Eカード不良につき、バックアップラベルにて通過判定をお願いしたい。

計センでは1ポの判定しかねると言われたので、競技責任者にて判断をお願いします。穴を残し切れていないのは自分のミスですが、あとはあるので、かん大な判断いただけると幸いです。

競技責任者による回答

バックアップラベルを確認しましたところ、パンチによる穴であると断定できなかつたため、不通過とします。



搜索に関する報告

【前提】

トレイン内には、「クマ出没注意」の看板が設置されており、2023年夏や2024年春には地図調査中の運営者が熊を目撃していることから、トレイン内にクマが生息していることは明らかであった。トレイン内の大部分は携帯電話による連絡が可能だが、一部において電波が著しく入りにくい場所や圏外となる場所があった。

【遭難防止テープ】

- EA 及び競技責任者との相談のもと、トレインの西端・東端に黄色テープを連続的に設置し、地図上では大まかな位置を示した。
- 本トレインは、国道299号線、大石川、水無川がトレインに沿う形で通っており、南北へのマップアウトのリスクは非常に低いと判断したため、トレイン南端・北端には遭難防止テープを設置しなかった。

【搜索体制】

- テレイン内での熊の生息や通信状況に起因する、撤収者・搜索者の遭難の可能性を考慮し撤収を兼ねて2人ペアで合計11ペアをテレインに投入した。また、テレイン内に車を待機させ、撤収物の回収や怪我人の搬送に使用することとした。

【未帰還者チェック】

- 本テレインは北西範囲と南東範囲で分かれており、北西範囲は上級コースの一部のみで使用され、北西範囲から南東範囲に向かって走るコースを設定した。北西範囲から南東範囲に向かう道上に運営者を配置し、ゼッケン番号を記録することで、未帰還者がどの範囲にいるか絞り込みを行った。その結果、フィニッシュ閉鎖の15:30より前に、北西範囲から競技者がいなくなったことを確認し、北西範囲の撤収を早めることができた。
- 本大会ではフィニッシュ地区と計算センターが離れた場所に設置された。運営者用の連絡ツールにて未帰還者の共有を行うことで、迅速に未帰還者の絞り込みを行った。
 - フィニッシュ閉鎖の30分前から、フィニッシュパート員が連絡ツールにて、フィニッシュ通過者のゼッケン番号を共有した。これにより、計算センターを通る前の帰還者情報を得ることができた。

【搜索スケジュール（想定）】

15:00 フィニッシュ閉鎖30分前

フィニッシュと計算センターにて、未帰還者リストの作成を開始

15:30 フィニッシュ閉鎖

撤収・一次搜索の開始

16:45 一次搜索の終了・二次搜索を開始

17:00 警察と消防に連絡

17:30 二次搜索の終了

運営者がテレインから撤退完了

- 前回大会の反省から、警察と消防に対してオリエンテーリングという競技の特性を説明することが難しく時間がかかることが予想されたため、説明するのに45分かかると見積もり、日没時刻2時間前である17:00を警察と消防に連絡する時刻と設定した。

【搜索スケジュール（実際）】

14:50 北西範囲から競技者がいなくなったことを確認し北西範囲の撤収を開始

15:00 フィニッシュ閉鎖30分前

フィニッシュと計算センターにて未帰還者情報の共有を行い、随時更新

15:35 競技者が全員帰還したことを確認し、全体に共有

17:00 撤収完了

- 当日は午後から雨が降り始め、想定よりも通信状況が悪化した。テレイン内の運営者との連絡がとれず、かなり時間がかかってしまった。
- フィニッシュ閉鎖前に未帰還者がいなくなることを想定しておらず、撤収作業に一部滞りが生じた。



体験会に関する報告

• 準備

- 教育委員会の協力を得て、佐久穂町立佐久穂小学校・中学校の全校生徒約400名に体験会告知のチラシを配布
- チラシは自作の物
- GW調査で八千穂高原スキー場のオリエンテーリング用地図を作成

• 当日

- 会場：八千穂高原スキー場
- 時間：10:00~15:00（最終受付14:30）
- 参加：約60組の方（地元の方約50組、本大会参加者約10組）
車での来場が必要だったこともあり、地元の子供たちは保護者と一緒に来場
→そのまま保護者と一緒に紙芝居、正置ゲーム、体験会レースを回る

【来場者の流れ】

① 駐車場から体験会受付へ

名前、年齢、保護者の方の緊急連絡先（任意）を記入して受付完了

② オリエンテーリングの紙芝居を聞く

→オリエンテーリングのルール、地図記載の記号の説明など

③ 正置ゲームを体験

オリエンテーリングのコンパスの使い方を、ゲームを通じて体験する

ゲーム参加者は、コンパスを使い周囲に置かれた動物のパネルへ直進する

④ 体験会レースへ

⑤ レース終了後、受付に戻る

景品と賞状を受け取る

もう一度レースを行いたい場合は、体験会レースのスタートに向かい、レースを開始

【体験会レース】

- 初心者向けコース、上級者向けコースを実施
- 初心者向けコースを最初に回ってもらい、もう一度走りたい場合は上級者向けコースを回ってもらう
- コース作成に関しては特徴物（リフト、建物、人工特徴物）にポストを置く
 - 所要時間は初心者：10~20分程度、上級者：15~30分程度
 - ポスト数は初心者：6、上級者：9
- ポストに設置されたシールを地図に貼ることで通過証明とする

【安全のために】

- マップアウトを防ぐためにテープと三角コーンを使用し、簡易的な柵を作成
- 滑りやすいところに関しては、足元注意の看板を設置
→無事、参加者にけがなく体験会を終えることができた

【体験会チラシ】

オリエンテーリング体験会

オリエンテーリングってなに？
地図とコンパスを持って、チェックポイントを順番に回るスポーツです。その速さを競います。

△(スタート)から
○(ゴール)まで順番に
回ります！

はた めじるし
旗を目印にポイントを
さがします

オリエンテーリングは頭を使うスポーツ。
足がはやい人もかてる。
頭がよい人もかてる。
おもしろい！！

時間：2024年6月9日(にちようび) 10時～15時(受付14時30分まで)
荒天中止、小雨だったらやります！

場所：八千穂高原スキー場 (スキー場の駐車場をつかえます)

参加費：無料

持ちもの：飲みもの、タオル (動きやすい服装でください)

景品：メダル、おかし

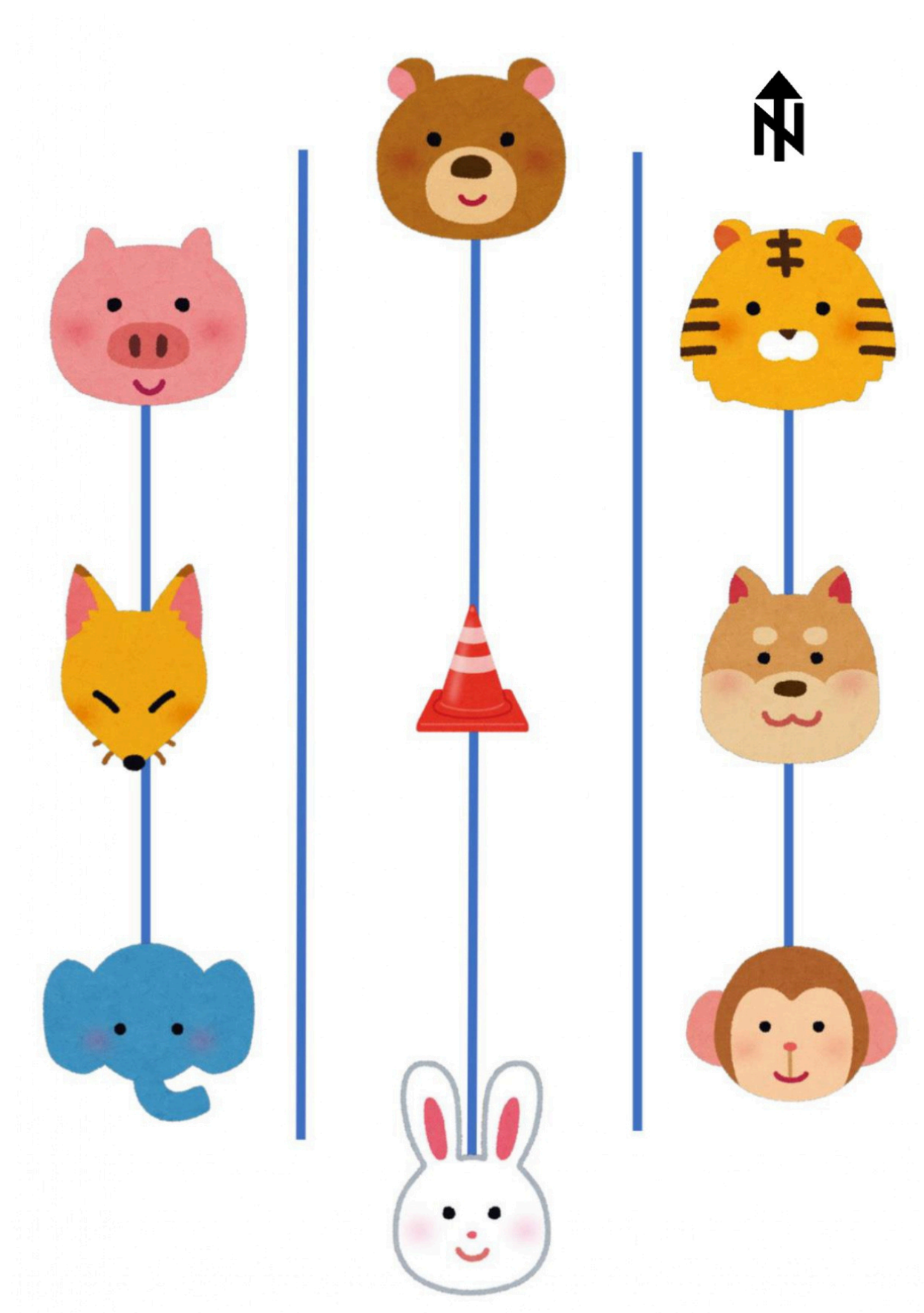
コース：「こども向けコース」「初心者向けコース(高学年・大人向け)」

<連絡先>
東京大学オリエンテーリングクラブ
体験会責任者 佐野勇仁
mail: 46th@comp.olk.jp
Tel: [REDACTED]

大会公式サイト、大会公式Xで
詳しい情報を記載しています！
公式X: @olkcomp

大会公式サイト

【正置ゲーム】

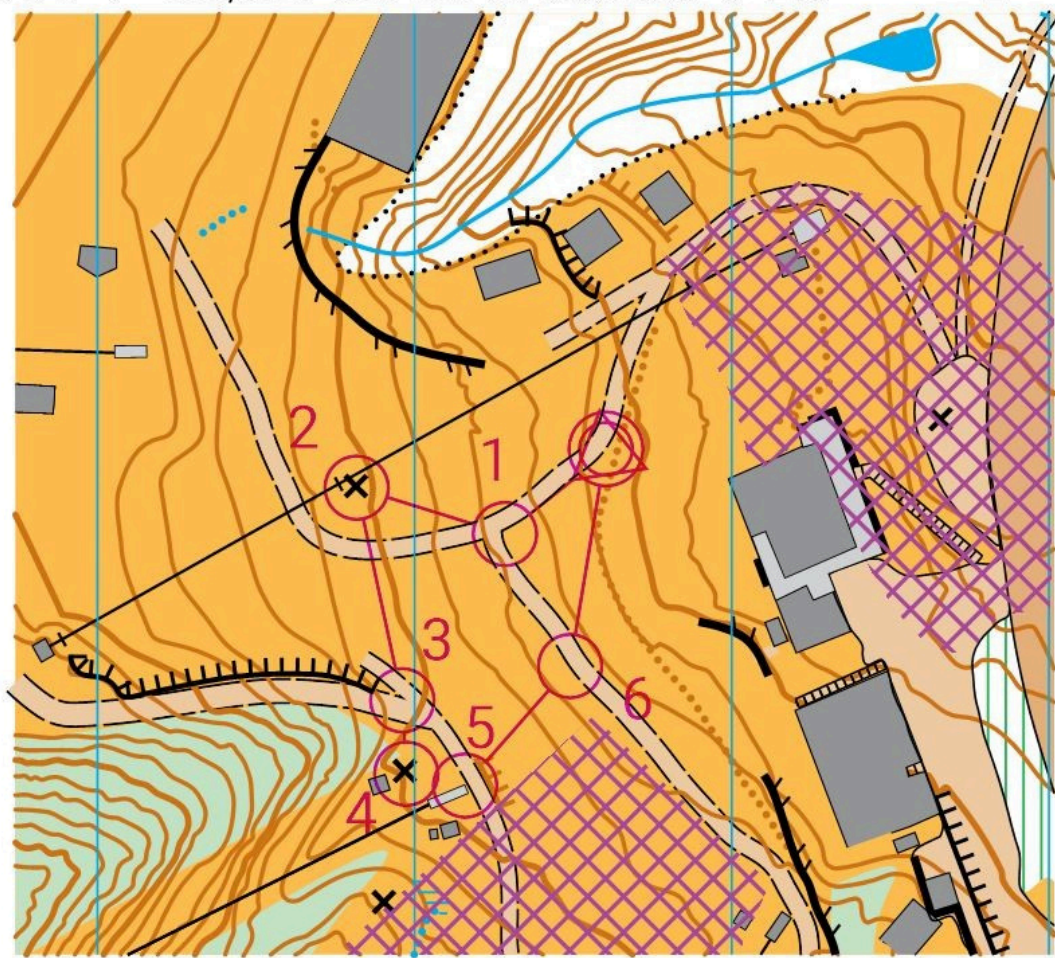





【体験会地図】

やちほこうげんすきーじょう

長野県佐久穂町

しゅくしゃく 1:1,500 とうこうせんのかんかく 2m



「八千穂高原スキー場」
2024年5月
東京大学オリエンテーリングクラブ作成
原図：国土地理院 基盤地図情報
(2024年5月1日参照)
調査者：佐野勇仁、佐藤優太郎、砂田優萌子
作図責任者：山中望

初級

緊急連絡先：
（佐野・体験会責任者）

1 みちのふんき	2 とくちょうぶつ
3 みちのふんき	4 とくちょうぶつ
5 とおれる たてものかど	6 みちのまがり

■ たてもの

■ 中がとおれる たてもの

× タイヤなど

↑ リフト

さく・かべ・がけ (あぶないからこえないでね)

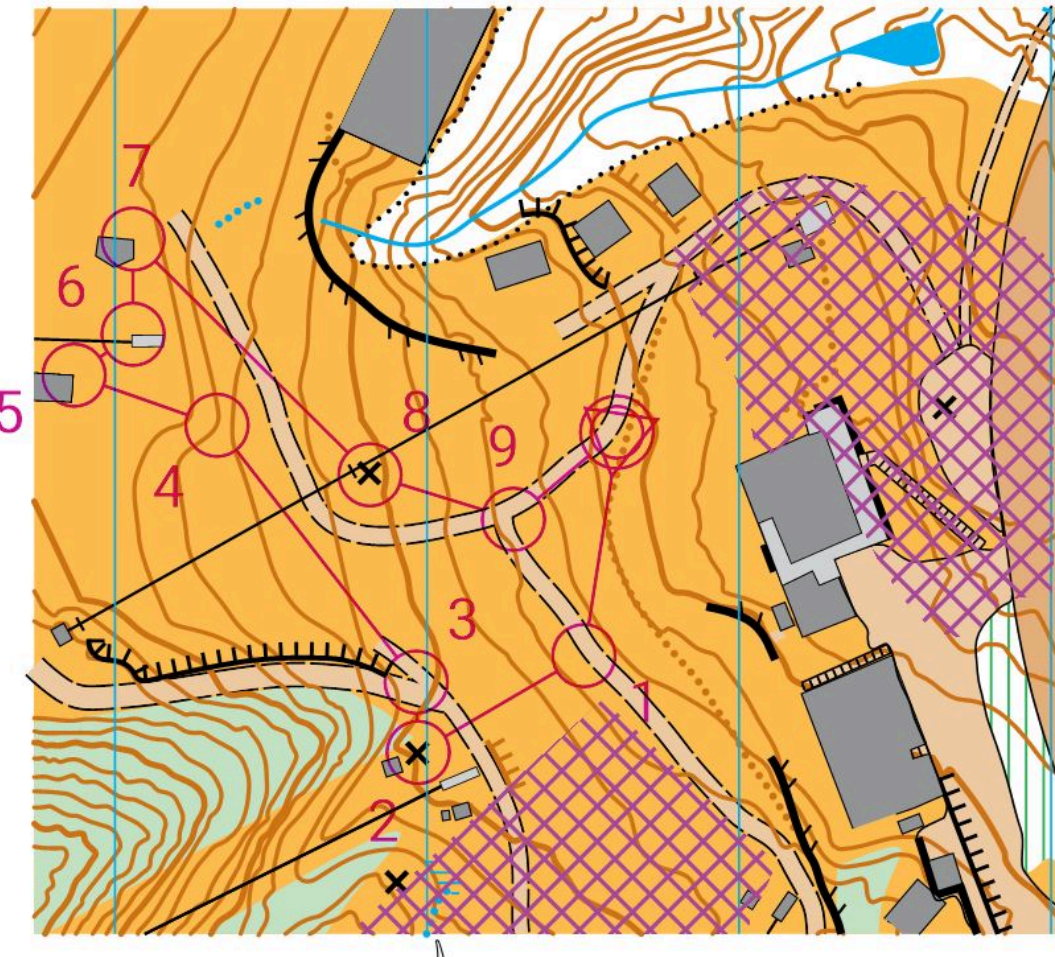
✖ はいらないでね




2024/06/09
第46回東大OLK大会

やちほこうげんすきーじょう

長野県佐久穂町

しゅくしゃく 1:1,500 とうこうせんのかんかく 2m



「八千穂高原スキー場」
2024年5月
東京大学オリエンテーリングクラブ作成
原図：国土地理院 基盤地図情報
(2024年5月1日参照)
調査者：佐野勇仁、佐藤優太郎、砂田優萌子
作図責任者：山中望

上級

緊急連絡先：
（佐野・体験会責任者）

1 みちのまがり	2 とくちょうぶつ
3 みちのふんき	4 とがったちけい
5 とおれる たてものかど	6 たてものかど
7 とおれる たてものかど	8 とくちょうぶつ
9 みちのふんき	

■ たてもの

■ 中がとおれる たてもの

× タイヤなど

↑ リフト

さく・かべ・がけ (あぶないからこえないでね)

✖ はいらないでね

2024/06/09
第46回東大OLK大会



募金に関する報告

7月にチェコで行われた世界ジュニアオリエンテーリング選手権大会に出場するため、梶本 和選手（東京大学2年）への募金を会場にて行いました。募金額は41130円集まりました。ご協力ありがとうございました。



大会役員紹介

大会責任者	石川 翔太	(東京大学2022年度入学)
運営責任者	吉田 聖悟	(東京大学2022年度入学)
競技責任者・コース設定者	栗田 稜也	(東京大学2022年度入学)
渉外責任者	和田 向日葵	(法政大学2022年度入学)
調査責任者	泉浦 旭秀	(法政大学2022年度入学)
作図責任者	山口 颯大	(東京大学2022年度入学)
イベントアドバイザー	宮嶋 哲矢	(千葉大学2017年度入学)
渉外責任者補佐・広報責任者	砂田 優萌子	(お茶の水女子大学2022年度入学)
調査責任者補佐	遠藤 浩明	(東京大学2022年度入学)
作図責任者補佐・会場パートチーフ	山中 望	(お茶の水女子大学2022年度入学)
会計責任者	吉田 晃平	(一橋大学2022年度入学)
資材責任者	丹治 聖陽	(一橋大学2022年度入学)
エントリー責任者	一条 理央	(十文字学園女子大学2022年度入学)
大会HP責任者・検索責任者	宮田 鈴子	(お茶の水女子大学2022年度入学)
スタートパートチーフ	松井 俊輔	(一橋大学2022年度入学)
競技者救護パートチーフ	井村 真岳	(東京大学2022年度入学)
フィニッシュパートチーフ	兼子 照実	(実践女子大学2022年度入学)
計センパートチーフ	奥村 尚史	(明治大学2022年度入学)
バスパートチーフ	本間 皓大	(東京大学2022年度入学)
交通パートチーフ	佐々木 奏太郎	(東京大学2022年度入学)
体験会パートチーフ	佐野 勇仁	(法政大学2022年度入学)
演出パートチーフ	松塚 乃愛	(お茶の水女子大学2022年度入学)
大会公式キャラクター・ロゴ・Tシャツデザイン	新目 裕亮	(立教大学2022年度入学)

< 役員 >

新井 悠仁 有本 寧羽 遠藤 陽太 折橋 旺 小野 慶真 河内 絵里香 久保木 航
小島 優唯 佐藤 優太郎 佐藤 諒平 園部 仁士 内木 睦 橋村 ひな 長谷部 倫太
平田 千畝 細野 泉 溝端 昭子 三井 健世 弓田 和生 岩鼻 晃樹 小野山 航 木戸 友仁
小寺 智樹 関和 小菊 安齋 嘉希 生田 真大 宇田 陽介 大石 涼太 大野 栞 大森 寛玖
梶本 和 角谷 拓海 久米 慧 鈴木 耀太 竹林 茜音 田中 志歩 中島 宗一郎 中村 仁紀
原 泰也 平松 直也 福田 泰士 牧戸 悠生 町田 千優 三木 菜摘 三宅 峻介 牟田 悠真
森 彩葉 森下 謙 矢板橋 秋香 山下 大輝 ラファエル 山村 真由 湯地 晶子 渡邊 陽与
伊能 友紀 岩佐 佳祐 北村 綾夏 工藤 颯人 今 勇翔 田中 統偉 中村 智英 菱沼 大智
町田 涼介 柳田 心瑠 山口 歩 山越 莉久 山下 直起 山邊 晴登

< 調査協力 >

伊藤 嵩真 藤原 悠平 小森 直人 長瀬 麻里子



大会公式サイト

第46回 東大OLK大会公式サイト <http://www.olkcomp.sakura.ne.jp/46th/>



連絡先

ご不明な点やご質問等がございましたら、以下のアドレスまでお問い合わせください。

46th☆comp.olk.jp (☆を@に変更して送信してください)